

平成27年度宿泊研修を実施

今年も4月28日に恐怖の(?)宿泊研修会が開催されました。例年、皮切りに外部の諸機関、諸企業を見学させていただいてますが、本年度の見学地は函館地方気象台でした。

ご存じの通り、以前は函館海洋気象台と称していましたが、それまでの海洋気象観測の運用を終えて、2013年に現在の名称に改変したそうです。

業務の紹介や観測技術の説明は、パワーポイントによるプレゼンを通して行われましたが、木直地区における当社の施行地



予報業務ツールの説明を受けています

を組み込んでくれたことには、気象台のホスピタリティー(歓待の精神)をうかがい知ることが出来ました。

なお、7月18日に見学会を催すとのことでしたので、詳細な業務を学ぼうとする方は、この機会に訪れては如何でしょう。

午後は外部講師を招いての講演です。今年度は札幌市に本社を置き、企画メディアや印刷事業を展開されている(株)アイワードの代表取締役会長、木野口功さんです。氏は当初公務員をなさっていましたが、企業意欲が旺盛で中小企業家同友会との縁で現在の会社の前身である印刷会社の経営層に加わり



木野口 功氏

ました。が、入ってびっくり。財務体質はガタガタ、社員はモチベーションが低く、会社の体をなしていなかったそうです。

労働組合からは給料の倍額などの要求を突きつけられますが現状認識と、意識改革からのスタートであったと言います。

筆者は、木野口さんの講演の中から幾つかのキーワードを拾い上げて氏の講話の要約に代えようと思います。「社会人としてのまともな人間」「挨拶とお辞儀プラス5S」「社会との良好な関係」「顧客に選択される企業＝事業の優越性(技術)」これらの言葉(Word)は、個人から集団(企業)～地域～社会との関わりに不可欠なものと感じました。

研修の最後は「10年後の自分と会社」をテーマとするグループ討論でした。みなさんは、自分たちが発言したことに思い責任を持って、今後の10年を歩むことを決意したようです。

「やりっぱなし」という短所をどこまで埋めることができるか、10年後にグループ討論の記録を読み返してみましよう。

感想文もよろしく!



安全と衛生



戸沼岩崎建設株式会社 発行
平成27年6月15日
<http://www.tonuma.com/>
第210号



定期健康診断のはなし



今年も法令に基づく(労働安全衛生規則第44条)定期健康診断を実施しました。診断の目的は、単に疾病の有無を調べることは別に、皆さんの健康の保持、増進を図ることにあり、健康管理の手段として行われています。

また事業者の責務として、①社員の健康を阻害する要因を早期に発見する。②社員の健康状態を把握する。③社員に対する労働衛生教育、健康指導等健康管理を進めるための情報として活用する。…の3点があげられています。

唐突ですが、2012年に厚労省から出された「定期健康診断における有所見率の改善に向けた取組」のリーフレットによると、平成11年に43%であった有所見率が平成20年には初めて5割を超え、同22年には52.5%まで上昇しているそうです。

そこで当社の今春の健診結果を集計したところ、受診者37名のうち実に26名に【判定5或いはD】が認められ、有所見率は70%に達しております。項目としては視力9名、糖代謝7名、聴力6名以下、胃炎、便潜血、脂質…と続き、複数にまたがっている職員が目立ちます。

健康診断報告書は皆さんに届けていますが、判定結果を軽視することなく再検査を受けるか、かかり付けの医師に相談して健康の保持に努めて下さい。(命はひとつ、人生は一回)

平成27年度全国安全週間

7月1日に88回目の「全国安全週間」を迎えます。今年度のスローガンについては、職場をあげて危険箇所を発見し、速やかに労働災害防止対策を講じることを通じて、事業場の安全意識を高めることが重要であるという観点から定められました。

特に今年度は、足場等に係る改正労働安全衛生規則への対応状況の確認が大きなテーマになると考えられます。

- ・床材と建地とのすき間は12cm未満とする。
 - ・作業床の幅は40cm以上とする。
 - ・足場の組立等の作業に係る業務は特別教育の対象となる。
- …以上の基本3項目はきっちり念頭に置いて下さい。

スローガンの趣旨はリスクアセスメントの実施にあります。が、「実施計画」と「フォローアップ」は確実にリンクさせましょう。

スローガン 危険見つけてみんなで改善 意識高めて安全職場



店社パトロールピックアップ

6月4日に木古内町釜谷で発生した重大災害を受け、同じ町内で近接する工区を施工中の当社の工事サイトを緊急点検しました。写真は工区で最も函館寄り

函館江差自動車道木古内町
幸連橋下部外一連工事



アクセス道路を施工中でした。小河川を跨ぐための横断管を布設する作業を行っていましたが、発電機や細やかな資材がきれいに整えられ、作業する人々の意識の高さを感じました。

川に近い場所での作業も終盤でしたが、建設機械からの油脂類の漏れを想定して、吸着マットや中和剤の備えを提言しました。

仕事の手を休めてもらって「全国安全週間」の趣旨を説明し、作業手順を守ることの重要性と、夏を迎えるに当たって体調の維持に留意することを伝えました。

工事は坂尻篤彦さんが作業所長として指揮し、畑中正樹さんが監理技術者の立場で技術水準の確保に努めています。



北海道魚道研究会が通常総会を開く

NPO法人 北海道魚道研究会は6月3日、通常総会を開き、昨年度の事業報告と今年度の事業計画などの議案を全会一致で議決しました。席上、戸沼理事長は総会当日を以て理事長職を退き、後任に森居久氏が新理事長に選任されました。



森居新理事長(左)と
紹介する戸沼会長

また役員改選では、当社社長戸沼淳氏が、他の4名とともに新理事に就任しました。

研究会は総会后、創立10周年を記念して特別講演会を開催しました。講師は岡山大学の花岡千草氏と、すっかりお馴染みになった日本大学の安田陽一氏です。両氏とも設立時に講演下さったご縁で今回再度ご登壇いただきました。



安田教授

花岡氏は、気候変動がもたらした水環境への適応策と、大学を活用した水質問題改善への取り組みを紹介しました。

安田氏は、魚道上流部における水制工に言及し、滞筋の確保に人力で可能な石組みの技術が有効であることを自身の実験で示されました。

砂川市の国道12号線で発生した事故で、家族4名の方が亡くなったことに大きな衝撃を受けました。何の落ち度もない人たちが、一瞬にして人生の前途を絶たれることの無念さを思うと言葉もありません。建設産業はリスクを背負ってもの作りをしていますが、最終的に人の手が頼りです。安全週間スローガンが希求するのは「人命尊重」です。